



## リストボックス行の高さを制御

Presented by: Add Komoncharoensiri

### 概要

v16では、リストボックス行の高さが行単位でコントロールできるようになりました。行の高さはコマンド (LISTBOX SET ROW HEIGHT) またはプロパティ (行高さ配列) で行毎に設定することができます。

### 行の高さを計算

行の高さが行単位でコントロールすることができますが、その高さは数値で指定する必要があります。つまり、テキストを表示するのに必要な行数またはポイント数を行毎に計算しなければならないということです。テキストが占有する高さは、ポイント単位であればOBJECT GET BEST SIZE、行単位であればTEXT TO ARRAYコマンドで計算することができます。

### サンプル

GoogleのAPIを使用して取得したデータ (書籍の内容) が表示されるよう、リストボックス行の高さをちょうど良いサイズにコントロールする例題です (インターネット接続が必要)。

『内容』列は、ワードラッププロパティが有効にされているので、長いテキストは折り返して表示されます。最初の設定では、行の高さが『2行』に設定されているため、ある行はスペースが余り、別の行はスペースが不足しています。テキストがもっと表示されるようにするためには、ウィンドウをリサイズするか、行の高さを増やさなければなりません。

『自動』チェックボックスを有効にすると、TEXT TO ARRAYコマンドで算定した行の高さを行高さ配列に代入することにより、行の高さをちょうど良いサイズにすることができます。

